

CVP サーバおよび Call Studio JRE/Java のサポート、互換性、アップグレード ポリシーおよびファイル

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[サポートおよび互換性](#)

[CVP コール スタジオ](#)

[CVP サーバ](#)

[CVP のアップグレード プロセス](#)

[JRE のマイナー な アップデート](#)

[アップグレード手順](#)

[JRE の主要なアップグレード](#)

[注意事項](#)

[アップグレード手順](#)

[フェールバック ステップ](#)

概要

資料は Cisco Unified Customer Voice Portal (CVP) およびコール スタジオで Java サポート、互換性および主要なアップグレード ステップを提供したものです。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- CVP
- コール スタジオ
- Microsoft Windows

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- CVP
- コール スタジオ バージョン 8.5 および それ 以降

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

サポートおよび互換性

CVP コール スタジオ

この表に言及されているようにサポートされたデフォルト Javaランタイム環境（JRE）バージョンを実行して下さい:

CVP スタジオ バージョン	デフォルト JRE バージョン
8.5(1)	1.6
9.0(1)	1.6
10.0(1)	1.6
10.5(1)	1.7

注: JRE アップグレードはコール スタジオでサポートされません。この制限は JRE の以降のバージョンをサポートしないプラグインおよび食が原因です。

CVP サーバ

サポートされた JRE バージョンの現在の一覧はこの表で表示されます:

CVP バージョン	デフォルト JRE バージョン	サポートのためにテストされる追加 JRE バージョン
8.5(1)	1.6	1.7
9.0(1)	1.6	1.7
10.0(1)	1.6	1.7
10.5(1)	1.7	該当なし

注: 現在のインストールをアップグレードする前にサポートされた JRE バージョンをチェックして下さい。他のどのバージョン（より早いまたはそれ以降）も前の表にリストされていないサポートされません。

CVP のアップグレード プロセス

JRE のマイナー な アップデート

[ソフトウェア ダウンロード ツール](#)は Java をアップグレードするために使用されます（たとえば、1.6.0_81 への 1.6.0_24）。

統一された CVP サーバの JRE バージョンのマイナーなアップデートを完了するために JREUpdate.bat スクリプトを使用して下さい。たとえば、スクリプトは JRE バージョン 1.6.0_24 から 1.6.0_81 にマイナーなアップデートをします。

注: スクリプトは JRE バージョンの主要なアップグレードをサポートしません。たとえば、JREUpdate.bat スクリプトは JRE バージョン 1.6.0_81 から 1.7.0_45 にアップグレードを完了できません。

アップグレード手順

1. パーソナルコンピュータで優先する Java Development Kit (JDK) バージョンをダウンロードし、インストールして下さい。
2. 統一された CVP サーバの既知位置にインストール済み JDK の内で利用可能な JRE フォルダをコピーして下さい。JRE フォルダは JDK インストールのルートフォルダの中で利用できます。たとえば、C:\JRE か C:\jdk1.7.0_67\jre。
3. CVP サーバの既知位置に JREUpdate.zip コンテンツを解凍して下さい。たとえば、C:\Cisco\CVP\bin。
4. 統一された CVP サーバの JRE バージョンをアップデートするために、コマンドプロンプトからこのスクリプトを実行して下さい:**C:\Cisco\CVP\bin >JREUpdate.bat は C:\JRE を適用します**
5. スクリプトは新しいバージョンにアップデートされる CVP JRE gets 実行し。スクリプト出力が更新済 JRE バージョンを表示するもののようにして下さい。
6. JREUpdate.bat スクリプトは C:\Cisco\CVP\jre.old で古い JRE のバックアップを奪取します。JRE の前のバックアップバージョンに戻るために、コマンドプロンプトからこのスクリプトを実行して下さい:**C:\Cisco\CVP\bin >JREUpdate.bat は戻ります**

注: CVP JRE は JConsole ツールが含まれています。JRE への正常なアップデートが、ツールバックアップフォルダの中しか利用できなかった後-jre.old/ビン。問題をデバッグする必要があったらバックアップフォルダ内からのツールを直接使用して下さい。

JRE の主要なアップグレード

Java をアップグレードするために (たとえば、バージョン 1.6.x から 1.7.y への)、このプロシージャを完了して下さい。

このツールは最新バージョンからバージョン 1.7.0_45 へ CVP 10.0、9.0、および 8.5 JRE をアップグレードするために作成されます。ツールは CVP サービス実行を用いるだけ CVP サーバでテストされます。CVP JRE を (C:\Cisco\CVP\jre のような) 使用するその他のサービスがあれば、このツールはきちんとアップグレードでき、誤った記述にシステムを残すかもしれません。

注意事項

CVP サービスから離れて、その他のサービスが CVP JRE を使用しないようにして下さい (C:\Cisco\CVP\jre の下にある)。それはこのツールを実行する前に強く推奨されています古い CVP JRE のバックアップを奪取するために。

アップグレード手順

1. JREUpdate.zip ファイルをダウンロードし、CVP マシンのあらゆるディレクトリでそれを解凍して下さい。解凍されたディレクトリの下、JRE ディレクトリ、JREUpdate.cmd ファイルおよび readme.txt ファイルがあるはずです。
2. 電流 CVP JRE バージョンをチェックするためにこのコマンドを入力して下さい。
`C:\Cisco\CVP\jre\bin\java -バージョン`
3. CVP JRE をアップグレードするため、起動 `JREUpdate.cmd`。
4. バッチファイル実行が終了したら、CVP JRE バージョンをチェックするためにこのコマンドを入力して下さい:`C:\Cisco\CVP\jre\bin\java -バージョン`ここに示されているように出力を見るはずです:`java version "1.7.0_45"`

```
Java(TM) SE Runtime Environment (build 1.7.0_45-b18)
```

```
Java HotSpot(TM) Client VM (build 24.45-b08, mixed mode, sharing)
```

5. 古い JRE は C:\Cisco\CVP フォルダの jre.old に移動する必要があります。

注: CVP とコール スタジオの同じバージョンが常にあるはずですが、コール スタジオは JRE の以前のバージョンがあるかもしれませんが CVP に JRE の以降のバージョンがある場合うまく働く必要があります。

互換性を (顧客が所有した Java による) チェックするために、これは配備の前にラボでテストされる必要があります。

フェールバック ステップ

1. CVP サービスを停止して下さい。
2. 古い CVP JRE をつかみ、c:\cisco\cvp フォルダに置いて下さい。
3. CVP サービスを開始して下さい。